

2014年12月14日(第164号) 発行所 カトリック高松司教区 広報委員会 〒760-0074 高松市桜町1-8-9 TEL 087-831-6659 FAX 087-833-1484 Email 教区: catholic-takamatsu@takamatsu.catholic.ne.jp 広報: tk-koho@mxi.netwave.or.jp 生涯養成: yousei@takamatsu.catholic.ne.jp WEB://www.takamatsu.catholic.ne.jp/



カトリック高松教区報

マザー・テレサの言葉
今日、人々は、ますますイエスの様子を渴望しています。
私たちがこの世界に本當の平和を求めるときには、いつも、イエスの様こそただ一つの答えなのです。

主の御降誕



降誕祭を祝って 諏訪 榮治郎

今年も子どもたちのクリスマスパーティーが私たちに馬小屋へと送られてくれています。ストーリーが分かっていくのに何度見ても感動します。かわいらしい羊飼いたちがイエス様を囲んで、いろいろ言葉を交わす場面は、「よかつたね」といつしよに感激しています。さて、この「羊飼いたち」なのですが、当時ほどのような人たちだったのでしょうか。クリスマス劇を指導する先生方と時々お話しすることがあります。イエス様の時代パレスチナはローマの植民地でした。ローマの支配下で苦しむユダヤの人々はいったん自立する日を画策していました。このローマの支配下にあるユダヤ社会は宗教的しきたりの強い社会でもありました。そんな中で「羊飼いたち」はどのような立ち場だったのでしょうか。幼い頃からたびたび「六甲牧場」にいきました。そこには「ひつじ」がたくさん飼われていて、お弁当を広げる時間になると、数匹の羊が鳴きながら寄ってきます。私たちはお弁当を小脇に抱え急いで逃げたのです。

神の子は私たちの隣人になられた



ぞつぎんのような汚い毛を体中に下ろした真羊は、もう一鳴きながら追いかけてきます。そんな「ひつじ」は私に迷惑な存在でした。これはイエスさまの生涯を通しての心遣いでした。イエス様が教えてくださった「主の祈り」にも「私たちの日ごとこの糧をきょうもお与えくださる」と祈るとき、少なくともこの日本では一切の「パン」の祈りはなく、日々の糧とは人間として生きる希望、支え、微笑み、人間の尊厳を互に分ち合い合せて生きていきたいとの祈りではないでしょうか。

マリアとヨゼフは幼子を「飼葉桶」に置きます。あなた方のため「糧」として「取って食べなさい」、そして「配ってなさい」とおっしゃったのではないのでしょうか。クリスマス、それは神の子が「小さくされた人々」の「隣人になられたこと」喜びのメッセージです。聖パウロのこほを思い出します。「神が私たちの味方となつてくださった」(ローマ8章) 神の子が私たちの「隣人」となつてくださったその喜びと恵みを世界中で味わいたいと心から念じています。

「貧しい人」「小さい人」と呼ばれたのに対して、ユダヤ社会からは「律法を知らない連中」と呼ばれ、ローマからまたユダヤ社会から二重の差別を受けていた人々であったのです。そんな「羊飼いたち」が救い主の到来に招かれ、救いのメッセージを最初にいただいたのです。彼らは急いで「飼葉桶」を探し、寝かされている幼子を探して見なされたのです。

叙階式のお知らせ

叙階者 助祭 末 享根 日時 2015年2月11日 (水) 午後1時30分 場所 桜町司教座聖堂

高松教区人事

・赤羽江豊師 10月31日をもって大阪教区へ
・村上康助師 11月1日をもって桜町教会担当

違いが豊かさになる教会共同体を目指し

このほど行われた大阪教会管区司牧者研修会で在日外国籍信徒の問題が取り上げられ話し合われました。この問題は現在の高松教区にとっても直面している課題です。そこで私たちの教区、各小教区の課題として考えて頂くため、同研修会の内容や感想を前号に紹介させていただきます。

(4) 違いが豊かさになる教会 共同体を築くには、各グループからの意見(見解)を、生活の前提が異なる場合、まずしっかりと話し合う、説明し、文化を伝え合うことが必要です。

G1 違いばかり見るのではなく、相手を尊敬する気持ちを持つこと。
G2 母国語のミサで祈りは豊かになる、母国語の大切さもある。
G3 キリストが伝えたかった事が、自分の思いに焦点を合わせて問題視していないだろうか?
G4 多国籍グループの教会で年々増加する「インナー・ミナリ」の存在は、多国籍グループの教会で年々増加する「インナー・ミナリ」の存在は、多国籍グループの教会で年々増加する「インナー・ミナリ」の存在は...

在日外国籍信徒について考える (下)

高松教区司教 諏訪 榮治郎

言語を超えて同じ神に向かう喜びを

小教区評議会などに外国籍の方が参加する工夫をもち、多国籍グループの教会で年々増加する「インナー・ミナリ」の存在は、多国籍グループの教会で年々増加する「インナー・ミナリ」の存在は、多国籍グループの教会で年々増加する「インナー・ミナリ」の存在は...

キリスト教一致祈禱週間を迎えて

キリスト教一致祈禱週間では、1月18日から25日を「キリスト教一致祈禱週間」と定めています。高松教区においては、1月18日から25日の間の日曜日を「エキュメニカルの日曜日」としてミサを営みます。

自分の信仰見つめ直す機会

カトリックと他のキリスト教諸派との違いは秘跡や聖母マリア、教会などに異なる点があり、これらは簡単に解決できない重大な問題です。けれど、カトリックと他のキリスト教諸派との違いは秘跡や聖母マリア、教会などに異なる点があり、これらは簡単に解決できない重大な問題です。



多国籍で和気あいあいの司祭団

も、エキュメニズムは、すべてのキリスト教徒が「洗礼」において、イエスを主であり、救い主である信仰していることに基づいています。

「洗礼」によってキリスト者となったすべての人々がイエス・キリストを中心として、互いの違いを乗り越えてキリスト教が一つになることを願って捧げられま...

ゆるし」がなければならぬ。これは、一朝一夕でできるものではなく、時代を超えて取り組むべきものである。制度の問題は取り組んでも、生活習慣、信仰の伝達などに関し、そこには彼らを引きつけていく「リーダー養成」をしていく必要性を感じる。

はばたき

12月に入った。降誕祭ももうすぐ。羊飼いに天使たちが告げた「神に栄光、地に平和」の賛美の歌を歌いながら大きな喜びの中で主の降誕祭を迎えよう。



ミサ後に「コーヒーショップ」で懇親



高知市中心部に位置する当教会は、1882年(明治15)パリ外国宣教会のマレンプレシ神父が、大阪から高知に派遣されて来られた時に始まりました。その後、1913年(大正2)現在の場所にドミニコ会によって献堂され、1945年7月4日の高知空襲によって焼失しました。ドミニコ会は本部を松山に移転し、1949年、米国から派遣されてきたオブレイト会(聖母献身宣教会)に引きつがれ現在に至っています。主日のミサの参加者は約60~70名。ミサ後は信徒交流の場として「コー



中島町教会 梶原良信

ICCからの **CHRISTMAS CAROL** お知らせ

12月21日(日)2014
16:30 ~ 17:30 in 桜町教会

歌、祈り
子供、青年、お母さん、司教、司祭、助祭、シスター
英語、日本語、スペイン語
続いて
クリスマスパーティ、
皆さんのお出でをお待ちしています

facebook | ICC Takamatsu Diocese
intl.catholic.community@gmail.com | Gmail

「青少年クリスマス会」のご案内

期日: 2014年12月23日(火・天皇誕生日) 10:00~16:00
場所: カトリック四国会館2階ホール
対象: 中学生~青年(未洗者も大歓迎)
目標: ①クリスマスの意義を青少年に味わってもらおう機会。
②受洗の有無、年齢、地域、環境の違いを超えた交流
③出しものや音楽を通して自分を表現してみる。

日程: (当日多少の変更の可能性有り)
10:00 受付 10:15 歌、自己紹介
10:45 お話し、分かち合い 11:45 昼食
13:00 ゲーム・ビンゴ・出しもの
14:30 キャンツルサービス(祈りの集い)の準備
15:00 キャンツルサービス、分かち合い発表、記念撮影
16:00 解散

参加費: 500円 青少年司教委員会 プラザー 八木信彦
TEL/FAX: (0884)22-1746 メール: nobby@kb4.so-net.ne.jp

小教区紹介 中島町教会 (高知)

ここで語られる内容は、昔の教会のこと、自分の信仰生活について、子育ての悩みなど様々ですが、コーヒーとお茶菓子をつまみながら、気軽に話し合える場として定着しています。また、教会は近年、日本

人だけの教会ではなく、多国籍の人々が集う場へと変化してきています。担当司祭は、主日の午後と、平日に外国籍信徒の多い、須崎市、土佐山田町、野市町、中村市までも足を運んで、英語ミサを行っています。

その実りとして、例年、降誕祭、復活夜祭には、バイリンガルミサが行われ、多くの外国籍信徒の方々が参加されるようになってきました。

熱心なカトリック信者の多い国で育った彼らの熱い信仰心に触れ、日本人信徒も良い刺激を受けています。

今年、数年前に国際協力委員会が復活し、小教区評議会に外国籍信徒の代表が参加して下さるようになりました。お互いの交流の中で、小教区のこれからの、共に力を合わせて考えていきたいと思っています。

福音宣教司牧40年振り返る

信仰の苗床

2014年9月30日をもって、私は教会生活における福音宣教司牧に携わって丸40年を迎えました。

この間を振り返りながら、神への感謝とともに共に歩んでくださった皆様方に感謝の意を表明したいと思いつつ、投稿させていたいただきました。

西川康廣助祭

結果的には大神学生時代に挫折し、一旦は社会生活を過ごしたものの、神学生時代に培ってきた霊的な道への憧れは決して薄れることとはなかった。

福音宣教への養成と派遣

社会生活を送りながら、大阪教区・伊丹教会で二人のオブレイト会司祭と出会い、

神に感謝 共に歩んだ人々に感謝

種々の教会活動に参加しながら教会で働くことへの喜びと憧れが日に日に増していったことを覚えている。

こうして1974年10月1日から伊丹教会において、オブレイト会伝道師としての道を歩むことになった。

当時、伊丹教会には既にベテランの伝道師がおられた。私は当時の主任司祭に招かれた理由は、何だったのか。彼は私によくこんなことを話した。

私の福音宣教司牧への養成は、伊丹教会で司教実習を積み重ねながら3年間英知大学へ通い、聖書学、典礼学、教父学、神学などを学ぶことから始まった。

加えて半年間カナダでオブレイト会が支援活動していた「フロンティア・アポストレート」、つまりカナダのインディアン居住区において小教区や教育施設等にはボランティアや教育施設等にはボランティア

「第2バチカン公会議後の混乱の時代を経て、当時の日本の教会で働く司祭の平均年齢は54歳、将来日本の教会においては少子高齢化が進み、司祭・修道者の減少、召命減少、信徒の高齢化が顕著に表れてくることになる。そのような時代の到来に備えて今から将来の教会奉仕者の準備を始めないといけない。多くの貴重なユダヤ伝統について学ぶ機会を得た。

この呼びかけに心酔するまでには、こころの準備と決断に至るまでには約1年間を要したが、翌年2007年3月21日に高松教区終身助祭として叙階の秘跡を受け、今に至るまで、今日に至っている。

こうして振り返ってみると、長いようで短くも感じたが、この40年間の歩みの中に確かな神の導きの手を感じずにはおられません。

まず名古屋の神学院で去る時、指導司祭は次のように言葉を私に語った。「わたしはあなたに召し出されていないとは思いません。今あなたは神学校を後にするが、きっと神様はあなたに別の門を開いてくださるでしょう。」

指導司祭が語った『別の門』が、伊丹教会から始まり高松教区まで続いた33年間の伝道師奉仕職でした。この間のプロセスにも神の恵みを実感している。

伊丹教会時代は伊丹小教区における伝道師(養成期間)だったことが、徳島教会へ転勤してからは徳島県に在る4教会(鳴門・徳島・阿南・池田教会)における協力宣教師のため、そして高松教区に移籍後は、高松教区全体と中央協議会の諸委員会のレベルでの奉仕をさせていただいた。

振り返ってみるとこれらすべての積み重ねが、助祭奉仕職への準備だった気がします。

こうして深堀司教から始まり、溝部司教そして現在の諏訪司教と3人の司教方にお任せし、高松教区が宣教共同体として成長していく中で、少しでもお役にたつことができていることを感謝しています。

神学生便り 降誕ミサの光の温もり



自分の未熟さ故に、先行きが見えない暗闇の中、必ず光を見出すまで待たないで、「暗い、暗い、と暗くはないで、進んで火を灯さない」と叱咤激励のメッセージを頂いたのであります。

何よりも、家族の愛を基に、物心ついた頃から教会生活の中で私は育てて頂いたのであります。司教様・神父様、職場の諸先輩方等、先生、職場の諸先輩方等、師と呼ぶ方々や友との出会いを沢山頂いてきたと思っております。

私自身の神学生生活は、多くの支えを頂いて、ようやく3年目を終えようとしております。スムーズに行くことばかりではありませんが、志を同じくする仲間との祈り、学び、交わりの意味を感じる毎日です。

これからも、光を求め歩み続ける希望を新たに、待降祭・降誕節を過ぎて参りたいと思っております。皆様の上にお恵みと祝福が豊かにありますように。

神学科1年 高山徹

「生きている」お恵みに感謝

中島町教会 青木修子さん (94歳)

大阪の関目教会で、初めてキリスト教に出会いました。本を読むのが何よりも好きで、自分で2冊出版もしました。「まぼろしのふるさと」「はるかなる旅路」

です。悪い話は聞きたくありません。現在は、中島町教会の一人です。お手伝いは殆どしていません。でも、こんな信徒もいますよと、皆さん思っておいてください。



最後に今まで出会った神父さんと、誰をよく覚えておられますかとお聞きしたら、江の口教会にいた頃においた竹田神父様と答えられました。いつまでもお元気で。

中島町教会 梶原良信

ふるさととは現在の高知県土佐町森という所です。まずはプロテスタントの教会に足を運びました。親しい友からカトリックが始まりですと、1949年8月15日 29才の時、江の口教会で受洗、霊名はカタリナです。

教会ではあまり友はいません。年老いていろいろ忘れても、信仰は忘れません。それは生きる力です。「信仰は力なり」いつもそう思っています。現在94才になりました。神に感謝しています。お恵みは生きている事です。私は若い人たちに信仰のことを聞きたいです。神様に言いたいことは感謝の一言です。楽しみなのは毎日のよいニュース

いつもお祈りご支援ありがとうございます。少しくリノスマス関係でお話をさせて頂きます。

待降節は、イエスがお生まれになったことを今一度思い起こすこと、そしてイエスの再臨という未来への希望を求め、これら2つがテーマとなっております。

イエスは光にもたとえられます。光についての1つの原体験(降誕ミサの入堂時、子ども中心にキャンドルサービスをしたこと)が、今も当時の喜びと共に思い出されます。

真冬の寒さと夕闇の中で照らし出される灯火の光と温もりは、さながらその後

自分の未熟さ故に、先行きが見えない暗闇の中、必ず光を見出すまで待たないで、「暗い、暗い、と暗くはないで、進んで火を灯さない」と叱咤激励のメッセージを頂いたのであります。

何よりも、家族の愛を基に、物心ついた頃から教会生活の中で私は育てて頂いたのであります。司教様・神父様、職場の諸先輩方等、先生、職場の諸先輩方等、師と呼ぶ方々や友との出会いを沢山頂いてきたと思っております。

私自身の神学生生活は、多くの支えを頂いて、ようやく3年目を終えようとしております。スムーズに行くことばかりではありませんが、志を同じくする仲間との祈り、学び、交わりの意味を感じる毎日です。

これからも、光を求め歩み続ける希望を新たに、待降祭・降誕節を過ぎて参りたいと思っております。皆様の上にお恵みと祝福が豊かにありますように。

神学科1年 高山徹

た、感謝のうちに思い起こしております。

私の神学生生活は、多くの支えを頂いて、ようやく3年目を終えようとしております。スムーズに行くことばかりではありませんが、志を同じくする仲間との祈り、学び、交わりの意味を感じる毎日です。

これからも、光を求め歩み続ける希望を新たに、待降祭・降誕節を過ぎて参りたいと思っております。皆様の上にお恵みと祝福が豊かにありますように。

神学科1年 高山徹

ちよひひんぎ



メリークリスマス

小天使たちは
ローソクを片手に燻を
キラキラ光らせて
クロリア・聖夜・主は
来ませぬを歌う・

大天使たちは
それにバイオリンと
オルガンで唱和し
ファン・ゴッホの絵の
ようなスライドで
主の誕生を見せて
くれる

始めは悲しく・美しく
そして次第に
僕は黄金の像に
なったように
喜びで輝きたした

僕の前にはクロリア
僕の横にはクロリア
僕の後にクロリア
僕の頭上にはクロリア

僕はこの良き日を
今までディケンズの
クリスマスキャロルの
スタイルのように
心から祝したことが
なかった

しかし・・・
この小天使の歌声は
どうだ
あ、今 光の祭りの
真ん中で

僕は心の中で
メリークリスマス
メリークリスマス
と祈っていた
主よ、一つにして
ください



石清

イスラエル巡礼もお恵み

西川助祭のご指導による「聖書に生きる」講座を終えることができ、私は今の大きなクリスマスプレゼントに喜びと感謝で満たされています。

この講座が始まった2007年秋、丁度佳節前私は交通事故で入院手術をしまして、体力的にも参加出来る自信はなかったのですが、お誘いを受け「おそおそ」勉強を始めました。

＜全聖書読み終えて＞



現在のエルサレムの風景

毎週のミサの聖書朗読も以前より心に響き残るようになりました。詩編の美しい祈りの言葉、少し難解であったパウロの手紙、私

私はある機会に、林神父様の「石が叫ぶ福音」という本を読んだ。その本から、社会の底辺にある人々と共に歩む林神父様の不条理に対する腸から絞り出すような怒り、他人に対する思いやり、優しさ、温かさ、逆境にあってもなお希望を失わない強さが伝わってきた。ぜひ一度講演会があれば参加して、神父様にお会いしたいと思っていたところにその機会が訪れた。

11月2日から3日にかけて、高松教区人権を考える委員会と日本カトリック正義と平和協議会の共催で、イエズス会林尚志神父様の練成会が高松教区四国会館で開催された。「今の日本の流れと教会の目指す方向」というテーマに、東京やプロテスタン



桜町地下聖堂にて記念撮影

その人と向き合い、その人が持っている掛け替えのなさを見出し教えられる、善意はすべての人にある、誰も排除せず受容することを考

ちによさしくイエス様のことを話して下さっているようなヨハネ福音書。

3年前、グループの皆様との「エジプト・シナイ山・イスラエルへの巡礼旅行」に、未信者の主人に付き添ってもらい参加することができたのも大きなお恵みでした。

事故の後遺症(二重視)で細かい文字を読むのは辛く、挫折しそうな時もありましたが、私のような無知な者を受け入れて下さった先生や仲間のかたがた、また日曜日にはミサ、そして月曜日には聖書講座と連続して出かける私を支えてくれた家族に対しても感謝しています。

頂いたこのプレゼントを「こころの糧」とし、いかに育てていくかが今後の私の課題です。

カトリック桜町教会
アンナ 金本真弓

み言葉が呼びかけて下さる

特に、自分が発する聖書の箇所は、何回も読みまわす。何回も読みまわすうちに、み言葉が、私に呼びかけて下さっていることを知り、今迄も、常に聖句を口ずさんでいました。学ぶたびに次々と、また新しい「み言葉」に出会っていました。朝ミサに参加する時に、知恵を求め、早起する人は、苦勞せずに、自宅の門前で待つている知恵に出会う(知恵の書6・14)。疲れた者、重荷を負う者は、だれでも私のもとに来なさい(マタイ福音書11・28)。と、途中中車の中で口ずさみながら、次々と楽しい日々を送ることができました。



シナイ山

カトリック桜町教会
山地方ツコ

初めての集会祭儀の恵みに感謝

カトリック八幡浜教会は、明治三十年頃からシヤロン神父様が伝道を始めました。昭和九年インドロ・アグネス神父様が借家での伊崎氏による日曜学校を開始したことから、本格的な宣教が行われました。今年には宣教八十年になりました。昭和十三年マルシャ・ノ・ティエス神父が幼稚園と仮教会を建設し独立した小教区になりました。

本年六月一日に創立七十七周年を迎え、同日、諏訪榮治郎司教様は、五名の信者に集会所司式者・聖体奉仕者の任命を行いました。五月から南予ブロック長田中神父様による集会所司式・聖体奉仕に関する勉強会がミサの後に行われ、それぞれ

集会司式者・聖体奉仕者 八幡浜教会で5人任命



八幡浜教会での集会祭儀の様子

日曜日に上記の任命された信徒による「司祭不在時の信徒による集会祭儀」を実施するよう指示されました。そこで、八月三日に両教会で田中神父様指導のもとで集会祭儀シミュレーションを行い、当日を迎えました。

八幡浜教会
西園寺良徳
TSC 高松教区本部センター
東日本大震災大船渡支援
献金入金報告(含む米券)
10月11日分147893円
累計 14831645円
11月17日現在

「私が来たのは地上に火を投ずるため」

林尚志神父の練成会に参加して

された劣化ウラン弾によって、多くの罪のないイラクの子供たちが小児がんや白血病で苦しんでいる状況に心を痛め、二度と劣化ウラン弾が使用されることがないように、劣化ウラン廃絶の活動を続けていた。

彼が劣化ウランの被害の実

父様を見付ける事は不可能に近いと思われたが、その女性に林神父様を見つけたのだ。その時神父様はその女性の中にイエスを見たと言われた。

この「神の国は想像上の未来ではなく、神の愛が達しているところ」。教皇フランシスコの「福音宣教とは、この世界に神の国を創ること」とする回勅にも触れられた。二人が言われていることは、愛と正義と平和が行き渡った状態が神の国なのだということだった。この言葉は、林神父様の人柄や生き方に触れて、相手と同じ立ち位置

えたい」と言われた。そこにはいつも隅にいる人を心に掛け、苦業を共にしようとする林神父様の生き方があった。

「私が来たのは地上に火を投ずるため」

父様を見付ける事は不可能に近いと思われたが、その女性に林神父様を見つけたのだ。その時神父様はその女性の中にイエスを見たと言われた。

この「神の国は想像上の未来ではなく、神の愛が達しているところ」。教皇フランシスコの「福音宣教とは、この世界に神の国を創ること」とする回勅にも触れられた。二人が言われていることは、愛と正義と平和が行き渡った状態が神の国なのだということだった。この言葉は、林神父様の人柄や生き方に触れて、相手と同じ立ち位置

高松教区 人権を考える委員会 尾崎壽一

医療のともしび (43)

医療費はどのくらいかかっているのでしょうか。

日本の医療費はどのくらいかかっているのでしょうか？医療費というのは入院・外来の医療にかかる費用と調剤・薬にかかる費用と歯科にかかる費用の全てを合わせたものをいいます。

2009年度は35兆3000億円だったのが毎年約1兆円ずつ増えて、2013年度は39兆3千億円になりました。この調子では2014年度は間違いなく40兆円を突破してしまうでしょう。もう11年間連続最高更新を続けています。国家予算の半分近くを医療費が占めている状況です。この数字だけでは、億・兆円と言われてもあまりにも大きすぎて私たちには実態がピンときません。

ではもう少し医療費を肌で感じやすくするために、一人一人が年間にどのくらい医療費を使っているのかを調べてみましょう。2012年度、都道府県別一人当たりの医療費で最も多く使っている県は高知で、一人年間に62万5千円です。高知県の県民一人一人全員が2012年度の一年間で62万円余使ったのです。最も少なかったのは千葉県で一人40万1千円でした。ちなみに香川県は57万9千円です。

このように言われると「えっ、そんなに使っているの！」とびっくりする人が多いでしょうね。私たちは国民皆保険と言われるように保険制度

の中で医療を受けるので、実際にそんなに高額な医療費を払うわけではありません。若い世代なら3割負担、65歳以上になるとそれぞれ収入や事情に応じて1割から3割負担、その他障害認定者、難病指定者、生活保護、母子家庭など医療費免除の方もいらっしゃいます。



また高額医療費限度額制度という仕組みがあり、100万円またそれ以上300万円もするような高額な手術を受けても通常の収入の人なら1か月8万数千円の負担で済むようになっています。

差額ベッド代や食費などは別途かかります。このような仕組みになっているので、高知県の人は県民一人一人が年間62万も医療費がかかっているといわれてもピンとこないのです。

こうしてピンとこないところで医療費が膨らみ続け、またその他いろいろな分野で日本の国を運営するために必要な経費が膨らみ、現在日本の借金(国債と言われます)は累積国債発行額が1000兆円を超える事態になってしまいました。

このまま高齢化が進んで医療費が膨らみ続け、少子化現象が進み、これといった大きな産業力が育っていかなくなったら日本はどうなってしまおうのか心配せざるにはおられません。

聖マルチン病院 井原 彰一

教区スケジュール

- 1月
 1日 (木) ↑神の母マリア 元旦 【世界平和の日】
 2日 (金) (初金) 聖シリア聖グレゴリオ司教教会博士 記
 4日 (日) ↑主の公現
 11日 (日) 主の洗礼 祝
 12日 (月) 成人の日
 13日 (火) 司祭評議会10:30
 17日 (土) 聖アントニオ修道院長 記 宣教科評議会13:00
 18日 (日) 年間第2主日【キリスト教一致祈禱週間】(～25日)
 香川地区東讃ブロック地区集会在校町
 21日 (水) 聖アグネスおとめ殉教者 記
 24日 (土) 聖フランシスコ・サレジオ司教教会博士 記
 25日 (日) 年間第3主日【日本カトリック児童福祉の日】
 26日 (月) 聖テモテ 聖テトス司教 記
 28日 (水) 聖トマス・アクィナス司祭教会博士 記
 2月
 1日 (日) 年間第4主日
 2日 (月) 主の奉献 祝
 3日 (火) 高山右近帰天400年記念ミサin神戸13:30～
 5日 (木) 日本26聖人殉教者 祝
 6日 (金) (初金) 聖アガタおとめ殉教者 記
 8日 (日) 年間第5主日
 10日 (火) 聖スコラスチカおとめ 記
 11日 (水) ヤコブ奉助祭、司祭叙階式13:30 建国記念日
 14日 (土) 聖チリロ隠世修道士 聖メトジオ司教 記
 15日 (日) 年間第6主日
 18日 (水) 灰の水曜日(四旬節) (大斎・小斎) 朝拝6:30
 22日 (日) 四旬節第1主日
 24日 (火) 顧問会10:30/静修14:00

被災4年目の福島で Sr 宮武裕子

私は6月16日(月)～18日(水)、修女連のJ.P.I.体験学習プログラム「福島の中の旅2014」に参加して現地に行ってきました。

住めない家 草原化する田畑 心も震える現場での重い体験

松木町教会の活動に参加させてもらって、浪江町からの避難者が住んでいる仮設住宅を何度か訪問させていただきました。

高松にも異動になってからも新聞、テレビその他の資料にも気を配り、自分では関心を持っていました。しかし、体験学習に参加して、福島市だけでなく、浜通りと呼ばれる南相馬市、浪江町、飯館村、双葉町、川内村などを実際に訪れてみると、「ああ、これは違うんだ」と、言葉にならない重いものを全身に感じました。

「聞くとは大違い」といいますが、実際にその場に立ち、被災された方のお話を生で聞くということ、映像や印刷された文章

を見ることは全く違い、身も心も震える体験でした。マイクロボスの窓から色々な情景を見ました。住むことが出来ず荒れ果てていく家々、耕作することが出来ず、草原化した田畑。

一方で、「去年までは作付けされていなかったのですよ。これは今年からです。」といわれて見た青苗の育つ水田。殺すには忍びないといつて、放射線量の高い地域で牛と生活する牧場主など。さまざまなお話を聞きました。震災直後から仮設住宅の支援を行っている松木町教会「ふれあい茶の湯」の信者さん、南相馬の仮設住宅で、集いの場、憩いの場としてのサロン活動をされている方、同慶寺の住職、さゆり幼稚園一期生の方、教

会信徒会長さんなど。皆さんが言われます。被災者には様々な状態の方がいます。でも、被災者に差はない。避難する人があってもよい。どこにも移動出来ない人もある。「逃げないのもあり、であり、一緒にいるのもあり、です。毎日このことばの中で言い続けなければなりません。」

「自分ですっかり考えて自分なりの確信を持つべきです。」と複数の方が言われました。「ここにある現実、単に被害者ではない。被害者でもある。被害者でもない。反対なら徹底することだ。」「毎日の生き方でそうあるべきです。毎日のことばの中に言い続けなければなりません。」

何をしようか。ただ、「見に来てください。」「そうすればわかる。」「ここで何が起きているのか私たちがどうすればよいのか。」

「わたしたちはみな旅人。キリストと共に同行二人」のテーマで、1日目はイルダヤラジ神父様、7年前の高松教区人権を考える委員会の発足以来、現在までの活動を報告されました。次に諏訪司教様から高松教区の外国人司牧の現状とこれからの方針、ビジョンのお話がありました。

その後、坂出教会のアメリカ人信徒の体験談、外国

から日本にいられた方の支援や、お世話をされている方の話を聞きました。二日目は御ミサと交流会に参加し、私は交流会でコーラスを務めましたが、歌うにつれ全員の方が食事の手を止め、聞いてくださり感激でした。

最後に皆で手をつないで一つの大きな輪となり歌い廻った時は、「わたしはここの中にいるよ。」とイエスの声か聞こえてきそうでした。またおいしい食事もいただき感謝です。

三日目は松浦司教様の提案で、①子供の教育と司牧、②入国管理と労働関係、③共同体のかかりについての三つのテーマで分かち合いをしました。

私は因らずもグループの司会をさせて頂き、その中で、悩みを話して下さった人たちの話から、日本人同志の夫婦でも意見の対立はあり、外国人と日本人の夫婦もそうは変わらないこと、また、司牧に関しても、子供を持つ親として、子供が

学校の活動等で御ミサに与らないという悩みは日本人もまた同様だと気づかされました。それでも私たちは神様から愛されている地球家族なのだと感じました。諏訪司教様司式のごミサでは、それぞれの国の人が、母国語で聖歌を歌われ、とても印象に残りました。

この研修会でお世話を下さった方々の温かい心配りに感謝します。そして生涯旅人の私に、これからもイエス様が共に歩んで下さることを信じて生きていきたいと思っています。

坂出教会 綾 保子



牛の保護を訴える看板を見つけた

カトリック通信講座

1972年開設以来の信頼と実績。『聖書入門Ⅰ』のコラムには、Sr. 渡辺和子も登場。

- ＜全7講座＞
- T001 キリスト教とは キリスト教の概要
 - T002 聖書入門Ⅰ 四福音書(イエスの生涯)
 - T003 キリスト教入門 秘跡や信仰生活(洗礼準備にも)
 - T004 神・発見の手引 人生、自然を通して神へ
 - T005 聖書入門Ⅱ 使徒言行録・書簡・黙示録
 - T006 幸せな結婚 結婚の意味や愛、幸福
 - T007 生きること・死ぬこと 命に関する問題
- 詳細はホームページをご覧ください。

＜受講料＞(教材費・税込)
 T001～T004 各4800円
 T005～T007 各5300円
 ＜お申込み＞
 郵便振替用紙にご希望の講座名・講座番号(T001～T007)をご記入のうえ、下記にお振込みください。入金確認後教材をお送り致します。
 振替口座番号: 00170-2-84745
 加入者名: オリエンス宗教研究所
 ＜お問い合わせ＞
 オリエンス宗教研究所 カトリック通信講座
 Tel: 03-3322-7601 / Fax: 03-3325-5322
 URL: http://www.oriens.or.jp

全国教区報担当者会議

10月27日と28日、東京・潮見の日本カトリック教会館で、今年の全国教区広報担当者会議が開かれました。

今回は、12教区から15人の担当者が参加。「教区報の充実のために」をテーマに、日本機関係協会の白岩壽光(しらいらいわたしみつ)さんを講師に迎えて、教区報の紙面作りについて、具体的なアドバイスを受けました。

はじめは、広報の目的として、対象を見極め、何を伝えるかを考えて、それに合わせた内容を作るという基本を確認しました。その後、事前に講師に渡し、各教区の教区報を



熱心にメモを取る担当者たち

摘されました。全体的には、記事が長い、文字量が多い、専門的な用語が多い、また、罫線や見出しの誤用、といったマイナスマスの指摘がある一方、よく整理されている紙面や、コラム、編集後記といった読み物があった読みやすい、と「ほめられた」部分もありました。

来年も同じような時期に全国会議をやる予定です。テーマについて、今回は教区報の作成についての説明を聞いたので、来年は実際に作成するようなワークショップ形式でやりたい▼各教区のホームページについて今回のように実際に批評を受けながら改善点などを知りたい、といった希望が出ています。

今後、中央協議会広報で検討していきたいと思えます。

中央協議会 広報担当 有村浩一

神を觀想し、その実りを人々に伝えよ

聖ドミニコ宣教修道女会

医療法人社団聖心会 阪本病院

わたしたちは、患者様の立場に立った全人医療を行い、地域の皆様へ愛され信頼される病院を目指します

院内保育園完備

整形外科・脳神経外科・泌尿器科
皮膚科・眼科・消化器外科
呼吸器科・乳癌外科・形成外科
呼吸器内科・呼吸器内科・内科
リウマチ科・放射線科・リハビリテーション科・麻酔科
〒760-2002 香川県坂本谷町川原103-1
☎0879-25-1121 (代)
http://www.sakamoto-hosp.or.jp/

私たちは、自分を創造しようとするこどもをまなび、護りましょう

暁の星学園

鳴門聖母幼稚園 高知聖母幼稚園
阿南聖母幼稚園 海の星幼稚園